

風のように

甘木教会



主任牧師：白川道生

牧会委嘱牧師：竹田孝一

へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。
フィリピ2：8

【説教要旨】

今回の衆議院選挙で、自民と中道の差はなんだったのでしょうか。選挙のキーワードの一つは、年齢だということです。激動の大変化していく時代にあって、今まで経験を蓄えていた年の多い者よりも、若者に期待するという傾向があるということではないでしょうか。他人に気がねしないで、臆せずに自分の主張を率直に述べ、自分がこうだと思える生き方を主張する高市首相と昔出ていましたという元首相の野田党首では、若さと勢いが違ったのでしょうか。これが決め手とは、決して良いとは私は思いませんが。社会に一時的混乱を引き起こすことになっても良いのだ、いや時代がそれを求めていることだということでしょうか。この時、キリスト者としての私たちの生き方はどうでしょうか。

劇的に大変動していく世界だからこそ、落ち着いてパウロの言葉、聖書の言葉に聞いていきましょう。

パウロが薦める「キリストを模範とせよ」という生き方、「何事も利己心や虚栄心からするのではなく、へりくだって、互いに相手を自分よりも優れた者と考え、」という言葉は、どうも年寄り臭く、お線香臭いものにしか受け止められないように思えます。しかし線香臭いこの話しが、キリストがどのように生きたかということを書いた「キリスト賛歌」といわれています。

「キリスト賛歌」で、何が歌われているかということです。

キリストは徹底的に謙遜に生きたということです。「へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした」。謙遜、ラテン語でフミリタースが、徹底したものであったということです。謙遜の徹底が、神の子・イエス・キリストが十字架におかかりなるということであり、人に脅威を生み出します。イエス・キリストが神の子という位置を捨てて自分を虚しくする。それは、人に恐れを生じさせ、どうしてもキリストを抹殺しなくてはすまなくなるのです。キリストが神の座にいて光り輝いておれば人は何の恐れもない。

昔、ある牧師から泣いていました。彼が路上生活者の人を教会に招き入れ世話をしていると有力な信徒から「人を選べ」と言われたということです。この教会の外にいる私たちはこの信徒を簡単に間違っていると言うこともができるでしょう。しかし、自分が当事者で、当事者の教会になってみれば、おそらく私もこの信徒のように言うか、口には出さずに心で思うかもしれません。やはり落ち着いて教会生活をしたいという気持ちが起きるでしょう。公然と意義を唱えなくても大義名分をかかげ排除するかもしれません。

小さなこんなことでも、自分の今までの生き方を変え、「何事も利己心や虚栄心からするのではなく、へりくだって、互いに相手を自分よりも優れた者と考え、」とするなど耐え難い損失と感じるでしょう。自分の今までの生き方を変え、捨てて自分を低くするという生き方をする者は、はなはだ迷惑です。キリストは実に私たちにとってはなはだ迷惑でありました。だから大義名分をもって、人は、イエスを十字架につけたのです。

どうして私たちは、はなはだ迷惑なキリストの生き方を大切にするのでしょうか。それは私たちが自分のために生き、自分の徳を、地位を高めること、自己実現のためにいかなる努力もするという生き方にどうも違ふと感じ、イエスの生き方に魅かれると思っているから十字架の前に立ち、ここ、教会に、礼拝にいないのではないかと思います。

キリストの様に徹底的謙遜に私たちは生きることはできない。

「人を選べ」という声が私たちの中にある。しかし、できることなら少しでも自分もイエスのような生き方をしたいと思っているのではないのでしょうか。そしてこのことを十字架の死をもって示してくださったキリストが、私たちをキリストの生き方に近づけてくださるといふ信仰があるから、私たちは初代教会が礼拝の度に歌ったキリスト讃歌を持ち続けるのではないのでしょうか。

今日において、「何事も利己心や虚栄心からするのではなく、へりくだって、互いに相手を自分よりも優れた者と考え、」ということの思いこそが、逆の意味で死を越えて新しい命へと復活した出来事を起こす神の業として、行いとしてではなく、恵みとして受け止めていくとき、私たちは時代のこのエゴイズムと上昇志向で固まった不安の世界に命を与えるのです。

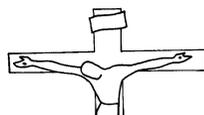
全てが上昇志向にあって、人を押しのけていく世界にあって、へりくだった生こそ、そこに新しい命が起きるのです。自分が、自分がということが、成功が期待されていく社会にあって、謙遜さこそ私たちの生き方でありたいと祈るのです。今の社会の有り様とは、まったく違う生き方です。こういう一文をいただきました。「今年をむかえてから、異なる国の考え方、価値観を排除するような世界の動きに不安と恐怖を感じます。これから先、生きていく子ども達だからこそ、今の幼稚園の一人ひとりのそのまを認めて仲よく一緒に育ち合っていることはきっと世界の平和にもつながっていくと信じています。」

めいめい自分のことだけでなく、他人のことにも注意を払いなさい。互いにこのことを心がけなさい。それはキリスト・イエスにもみられるものです。

受難週です

今週は受難週に入ります。月曜日から金曜日にかけて礼拝が行われます。ぜひ出席ください。

今週は主のみ苦しみを覚えて少し節制しましょう。好きな物など控えて祈りを強めていきましょう。



牧師室の小窓からのぞいてみると



人間は、地球の生き物の頂点に立っていますが、恐竜が滅びたように、恐竜化した人間は滅びるような気がする。科学技術の発達は、特にAI（人工知能）の発達は目を見張ります。私も幼稚園で翻訳機能を使っているし、インターネットで物を調べる時、必ず「AIによる概要」というものが出てきます。これからAIと私たちは付き合いっていくという大きな課題が生じました。そしてまた課題が大きくなっています。データの正確性やバイアス（「AIによる概要」バイアス (Bias) とは、思考、認知、判断、データにおける「偏り」「偏見」「先入観」のこと。無意識的な思い込みや情報の歪みを指し、客観的な判断を妨げる要因となる。心理学、ビジネス、統計学、機械学習など様々な分野で用いられ、公平な評価や正確な分析を阻害するネガティブな要素として認識されることが多い。）について懸念があるといわれています。小副川幸孝牧師は、「人間と社会：AI時代の「人間らしさ」って何？」と本を出されています。ぜひ、一緒に読み、AIと私たちは付き合い方を考えていたい。



園長・瞑想？迷走記

牧師研修をした教会立幼稚園で出会った中学生の子が今期、私の今の幼稚園の先生として働いていて定年を迎えた。定年引退を迎える時に自分が出会うとは想像できただろうか。もう一人は園児と先生の毎朝の会話が強く今で印象に残っているS先生が園長を退任される。夢を見ていて目を覚ましていないイサク君の目線まで腰を下ろして、「イサク君……」呼びかけてこちらの世界に呼び戻す光景と先生の声が残っている。

こんなに長く生きていると出会いがあり、別れがある。振り返るとすべが楽しく、良かった。充実した時が神さまによってつながれていっていた。

旅だった卒園生の時が再び私の時とつながる出会いを楽しみにして、もう少し、楽しく幼稚園に関わっていこうかな。

日毎の糧

聖書：主よ、わたしはあなたに感謝をささげる、
あなたは答え、救いを与えてくださった。



詩編 118:21

ルターの言葉から



これは、喜びにあふれた聖句です。純粋な喜びをもって、歌い踊ります。あなたは私たちを、驚くべく、また恵み深く統べ治められる、驚くべき尊い神ではないでしょうか。

あなたは私たちを最もへりくだらせるとき、最も高くあげてください。わたしたちが罪人であることを示すときに、義としてください。私たちをよみに下らせるとき、天に導いてください。私たちを降伏させるとき、勝利を与えてください。私たちを死に渡すとき、命を与えてください。私たちに悲しみを与えるとき、慰めを下さいます。嘆き悲しみを与えるとき、喜びにあふれさせてください。泣くことを許すとき、歌を与えてください。私たちが苦しむとき、強くしてください。私たちが愚かにするとき、賢くしてください。貧しくするとき、富める者にしてください。私たちに仕えることを許すとき、主（あるじ）にしてください。

こうしてこの一句の中に、数え切れないほどの驚くべきことが含まれています。これらすべてに対して、キリスト者は短い感謝のことばをささげます。「私はあなたに感謝します。あなたが私に答えられ、私の救いとなられたからです」と。

1532 年説教から

慈しみはとこしえに

体調がはっきりしない日々がある。歳も歳だから先が見えてくる。閉じようと人生を結ぼうとしているとき、「恵み深い主に感謝せよ。慈しみはとこしえに。」という詩篇の結びの祈りは、自然と自分の祈りとなっている。嘆き悲しみがいっぱいありました。しかし、神さまと出合い、信仰を通して多くの人との出合いは喜びにあふれ日々をくださいました。慈しみはとこしえに。アーメン。

祈り：主の慈しみに感謝のできるものとなりますように。アーメン。

甘木通信

コヘルトは言う。なんという空しさ、なんという空しさ、すべては空しい。太陽の下、人は労苦するが、すべての労苦も何になろう。コヘルト1：2



ブラジルで大キャノン・弓場司祭の執行する聖餐式を補助したそのとき、「君の教会は、礼拝は月1回しかしてないね。」と揶揄された。礼拝は基本的には、み言葉と聖餐である。聖餐式のない礼拝は、礼拝でないのである。天王子教会で息子は、毎週、聖餐式をしている。聖フランシスコ伝で、フランシスコが晩年、グレッチオの森で祝ったクリスマスの物語があった。フランシスコが粗末な樽を祭壇にしてミサを執り行っているとき、弟子たちはパンと葡萄酒の形の元に、幼児イエスが肉体をそなえて、臥しておられたのを目のあたりにした。幼児イエスはあたかも死んでいるかのように眠って横たわっていたが、フランシスコがその腕に抱き上げたとき、み子は目覚めて、その小さな手をあげて彼の頬や、粗末な修道服を撫でて微笑んだという。弟子たちはこの光景を不思議にだれも思わなかったという。聖餐は見える形でイエス・キリストにお会いするところである。

宗教改革の嵐のなかで改革派の巨頭、ルターとツヴィングリーがマールブルグで、改革派の大同団結をするための会談が行われた。最後まで一致しなかった。ルターは政治的にも、友情においても妥協すべきであったが、彼は自分のテーブルに「これはわたしのからだ」と書き付け、一步も妥協しなかった。政治的、友情をも捨ててな私たちの祖は、聖餐においてキリストが見える形でおられるという信仰であった。今日、教会において大切なことはフランシスコがルターが示した生きたキリストと出会おうという福音の現実（リアリティー）ではないだろうか。生きたキリストに会うというリアリティこそが私たちを変えていく力だと思う。弓場司祭が可愛がってくれたあの子は「あなたの言うように毎週、礼拝を行っていますよ。私は月に1回です。」と弓場司祭に伝えたい。



(甘木日記)土) 幼稚園の事務処理をし、甘木教会へ。日) いつものように掃除、庭の草取りをし、礼拝。いつもと違うことは松崎で自分の寄席の場を持っている方のところの寄席で嘯を聞く。月) 幼稚園に。気づくと桜が花を開きだした。本格的な春。定年引退される先生にプレゼントを購入。火) 主管牧師として任を負ってくださった白川牧師のためにプレゼント購入。久しぶりに切り絵をする。水) 大学病院に検査。経過観察。幼稚園に一日。木) 日善幼稚園、松崎保育園行き、午後から甘木教会。教会まで職員に送っていただき感謝。金) 朝から幼稚園。よく過ごした。

おまけ・牧師のぐち（続日記）牧師だって神さまの前でぐちります。はぐちらない聖人（牧師）もいますが。

土）今日も日善、羽村幼稚園の事務処理、電話メールをする。一つの課題が終わると次がやってくる。それだけ生きているということだろう。よく、主日の準備も順調。本も読めて余裕があった。健康は第一である。「つれづれ Aiko」



を読んでみると保育への楽しみに導かれる。こんなこと、あんなことをしようと勇気をいただく。（離合する本郷駅）来年度は教諭、保育者みんなで読んでみると楽しいだろう。日）朝、2時間、庭の草取り、花壇の手入れをする。礼拝。少し説教に力みがある。まだまだ未熟である。午後から久しぶりの雨。松崎駅の側で個人がもっている寄席で落語会。ぎりぎりに開演に間に合う。昨日の夜更かしがたったのか眠りと闘い。月）幼稚園に行く途中の小学校の桜が開花。春の預かり保育の子の声が園庭から聞こえてくる。引退される先生へプレゼントを購入。喜ばれるかな。火）バタバタしている。その中で庭から聞こえてくる園児の声は慰めの声。「お片付けだよ」と。パンジーが時を得たと言わんとばかり切れに咲ききっている。転勤される牧師さんのために家内とプレゼントを購入に行く。午後から久しぶりにその牧師がいた教会の切り絵を作る。たかが一枚の紙だけど感謝を込めて。水）預かり保育中の幼稚園にいる。幼稚園の周りと園庭は春のいっばいに花が咲いている。迷惑メールが来ていて、時代に取り残されている老人には不安だけしかない。午前中に大学病院に検査に行く。CRPがなかなか下がらないのが気になるが経過観察と次回2カ月後を予約。その間、何も起きないことを祈る。木）朝に日善幼稚園に行き、その後、松崎保育園へ、一年の職員、働きに感謝し、ミスタドーナツを買っていく。春の温もりの中を。午後から甘木教会でイッペーの苗を地植えにする。Zoom会議で羽村幼稚園の諸事務を話し合っていく。日善幼稚園の終礼報告が送られて来ている。楽しそうに過ごしたことが伝わってくる。小学校入学前のこどもら導し、準備。久留米には予定していた博多での食子どもたちは園外に遊び大切に春を楽しむ。



に鉛筆の使い方などを指



19時30分近くに着き、



事会はキャンセル。金）に行く。こういう機会を今週もよく過ごした。